

雌鳥の中のナイフ Knives In Hens

[作] デイヴィッド・ハロワー [翻訳] 谷岡健彦 [演出] 鈴江俊郎 (劇団八時半)

[出演] 加納亮子(桃園会)/上田一軒(スクエア)/夏(クロムモリブデン)

[日時] 2004年3月20日(土・祝) 2:00開演 ※開場は開演の30分前

[会場] アイホール(JR伊丹駅前)

[来日メンバー] デイヴィッド・ハロワー(劇作家) / フィリップ・ハワード(トラヴァース・シアター芸術監督) / キャサリン・メンデルソン(同・海外文芸担当)

[料金] 1,000円(全席自由)

[前売取扱] 電子チケットのみあり:0570-02-9999/0570-02-9966 (Pコード:352-327)

アイホール:072-782-2000 [企画製作・問い合わせ] 072-782-2000 (アイホール)

■終演後、劇作家、演出家、トラヴァース・シアターのスタッフらによるアフター・ディスカッションを行います。

[スタッフ] 照明・舞台監督=西崎浩道(エスエフシー) 音響=狩場直史(KPカムパニー)
宣伝美術=谷口アキロウ 制作=山口英樹/中田弘美(エアリエル・ヴォイス)

[主催] 伊丹市/(財)伊丹市文化振興財団 [共催] BRITISH COUNCIL 国際交流基金 | The Japan Foundation

[提携] トラヴァース・シアター supported by the Scottish Arts Council

「日英現代戯曲交流プロジェクト トークセッション」

トラヴァース・シアターの新作戯曲創作のプロセスや、スコットランドの創作環境を知る機会を提供します。

日時:3月16日(火)18:30開演 会場:京都芸術センター・ミーティングルーム2 参加費:無料

申込方法:事前の予約や申込は必要ありません。直接会場にお越し下さい。 お問い合わせ:075-2124771(ネットワークユニットDuo)

セッション参加者:デイヴィッド・ハロワー/ニコラ・マッカートニー(劇作家)/フィリップ・ハワード/キャサリン・メンデルソン

司会:鈴江俊郎/田辺剛(劇作家)

主催:日本劇作家協会 京都支部 共催:ブリティッシュ・カウンシル/独立行政法人国際交流基金/

特定非営利活動法人京都舞台芸術協会/supported by Scottish Arts Council

日英現代戯曲交流プロジェクト リーディング・セッション

この度、アイホールでは、英国スコットランドの首都エディンバラの中心的劇場で、劇作家の発掘と新作戯曲の上演で定評のあるトラヴァース・シアターと提携し、「日英現代戯曲交流プロジェクト」をスタートいたします。アイホールとトラヴァース・シアターは、このプロジェクトの最終目標を「日英劇作家による戯曲の共同執筆」に据え、さらには両国での本格上演への道を拓いていくことを将来の目標としていきます。

まずプロジェクトの第1弾としてデイヴィッド・ハロワー作『雌鳥の中のナイフ』を翻訳し、関西の演出家と俳優がリーディング形式で上演する「リーディング・セッション」を開催します。リーディングのリハーサルに合わせて劇作家とトラヴァース・シアターの芸術監督、文芸担当者を招聘し、本番後にディスカッションの場を設けて、観客や劇作家、演出家らとの交流を計りたいと考えています。

今回のプロジェクトでは、いつもは自作の戯曲を書き下ろして自ら演出している関西の演劇人たちに、海外の戯曲、特に台詞が重視される英国の現代戯曲に取り組む機会を提供し、演出面だけではなく劇作への新しい刺激としてもらい、海外を視野に入れた活動への扉を開くことができると考えています。また観客にとっても、気軽に海外戯曲に触れられる機会として、耳で聴いて戯曲の世界を想像し、膨らませていく体験としていただきます。今後と同様なリーディング企画を継続していきたいと考えています。

さらにプロジェクト第2弾として、関西の劇作家の中からトラヴァース・シアターが選んだ鈴江俊郎の作品を英訳し、今夏に同劇場でリーディング上演を予定しています。そして、今回のリーディング作品の劇作家であるデイヴィッド・ハロワーと鈴江俊郎による共同執筆プロジェクトをトラヴァース・シアターとの提携でスタートさせることとなります。

トラヴァース・シアター……英国で最も重要な劇場のひとつだ(オブザーバー紙)

トラヴァース・シアターはスコットランド随一の新作戯曲上演する劇場として、国内外で高い評価を得ています。新作戯曲の発掘と上演が中心ですが、近年は海外の作家の紹介と共同執筆に力を入れており、これまでに5カ国の作家の作品を上演、いずれも小規模な作品ながら質が高く好評を得ています。

またコミュニティ・シアターとして地域住民との共同創作活動にも大きな力を注いでおり、旗艦事業である「クラスアクト」プロジェクトでは、学生がプロの劇場スタッフと作業しトラヴァース・シアターの舞台上でその成果を発表します。加えて若者向けの戯曲創作講座「Traverse Young Writers」を開催、プロの劇作家の指導のもと3年以上にわたって毎週ミーティングが開かれています。

劇場の海外文芸担当であるキャサリン・メンデルソンは、01年3月にアジアの作品のリーディングを実施、その際に鈴江俊郎の『髪をかきあげる』を取り上げ自ら演出。ブッシュ・シアター(ロンドン)での同作品のリーディングでも演出を担当。同年12月にはメンデルソンの紹介で『髪をかきあげる』がベルリンにてドイツ語でリーディング上演されました。

鈴江俊郎●1963年生まれ、京都大学在学中に演劇活動を開始。89年『区切られた四角い地球』第4回テアトロ・イン・キャビン戯曲賞、95年『零れる果実』第2回シアター・コクーン戯曲賞、『もだちが来た』第2回OMS戯曲賞、『髪をかきあげる』第40回岸田國士戯曲賞など、93年より劇団八時半を主宰、劇作家・演出・俳優として活動。現在、近畿大学文学部芸術学科演劇芸術専攻助教授。(写真:右下)

デイヴィッド・ハロワー(David Harrower)●劇作家、1966年スコットランド、エディンバラ生まれ、95年トラヴァース・シアターで初演された『雌鳥の中のナイフ』で劇的デビュー。同作はロンドンでも上演、成功をおさめる。劇作だけでなく多岐にわたる戯曲翻訳・翻案家としての評価も高い。ナショナル・シアター、ロイヤル・コート・シアター、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーなどから新作を委嘱される一人として、英国演劇界注目の劇作家である。

『雌鳥の中のナイフ』は、米国、カナダでの上演のほか、フランス、オランダ、ベルギー、ドイツ、イタリア、ギリシャ、スカンジナビア、ハンガリー、リトアニア、ポーランド、ルーマニア、エストニア、スロヴァキアなど各国で翻訳上演されており、97年のベルリン批評家賞を始めとして海外でも数々の賞を得ている。(写真:左上)



AI・HALL
アイホール

